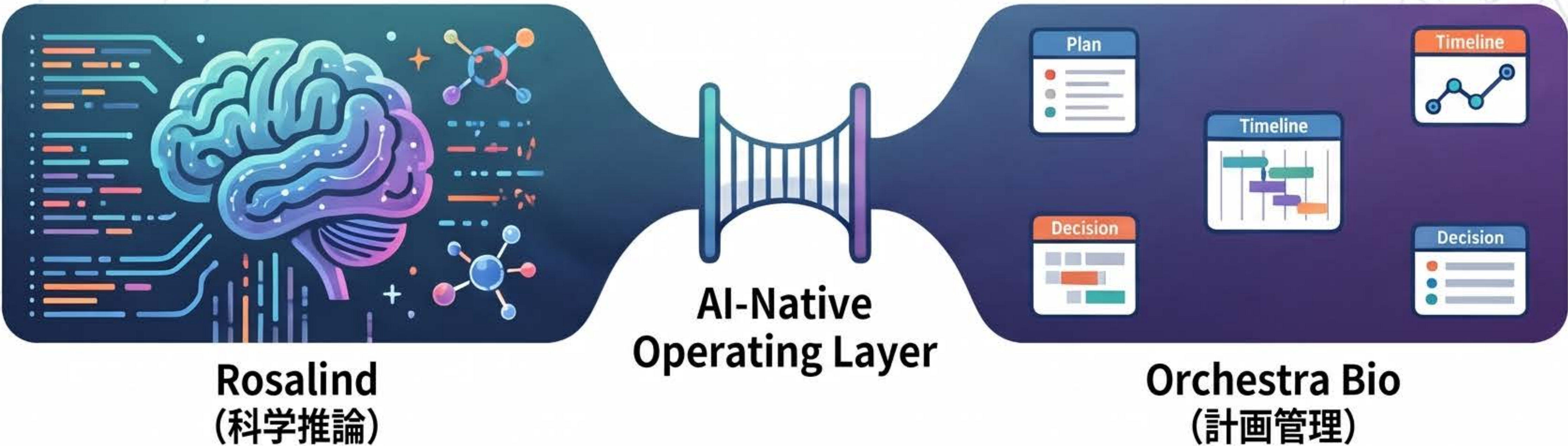


OpenAIによるOrchestra Bio買収：バイオ医薬品R&Dの「AI運用レイヤー」獲得

2026年10月、OpenAIはバイオ医薬品開発の複雑な計画と意思決定をAIエージェントで管理するOrchestra Bioを買収した。単なる創薬AIモデルの強化にとどまらず、ライフサイエンス向け製品群「Rosalind」に統合し、R&D全体を横断制御する「AI-native operating layer（運用基盤）」の獲得を目指している。

「推論するAI」から「業務を動かすOS」への進化

Rosalindの科学推論とOrchestraの計画管理を融合し、推論から実行・再計画までの閉ループを構築する。



既存DBの代替ではなく、全体を統括する「Control Plane」

VeevaやBenchling等の記録システムを置換せず、その上位でエージェントが複数システムを横断制御する。



Veeva

Benchling

Recording Systems (SoR)

競争の軸は「SoR対AI運用レイヤー」へ



SoR（記録システム）

AI運用レイヤー

既存SaaSもAI化を進める中、誰がワークフローと意思決定の主導権を握るかのアーキテクチャ競争が激化する。

成否を握るのはモデル性能よりも「規制・コンプライアンス適合」



厳格な製薬環境では、FDA 21 CFR Part 11準拠、監査証跡、人間による最終承認の仕組みが不可欠となる。